

12 2004 No.2  
月定例会号

自由民主党会派と県民をつなぐ

リンク  
**Link**

謹賀新年

## CONTENTS

- 新年に寄せて
- これまでの動き
- 議会報告
- 新春にあたっての抱負or信条
- 政務調査活動のスナップ
- 定例会一般質問
- 県連だより

# 新年に寄せて

自由民主党秋田県議会議員 会長 **藤原俊久**

新年あけまして、おめでとうございます。新しい年が、皆様にとりまして幸多きことを祈念いたします。

去年は、4月の統一地方選挙、11月の衆議院議員総選挙と、皆様には自民党に対する深いご理解と力強いご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、県政を展望しますと、市町村合併や三位一体の改革等の進展と相まって、地方分権が加速的に進んでいくものと予想されます。回復の兆しが見えない経済情勢に加え、少子高齢化の進展や治安の悪化など、社会全体に重苦しさや不透明感が漂う厳しい状況下で、地方の権限と責任が大幅に拡大することは、私ども地方行政に携わる者にとって、これまでも増して幅広い見識と高度でスピーディな判断力・行動力が求められているものと考えます。

私ども自由民主党秋田県議会議員団は、このような情勢を真摯に受け止め、これまで以上に皆様の声に耳を傾け、県民の求める政策の実現を目指し、政策提言と議員立法に一層の取り組みを行うとともに、分権により強大な権限を有した県行政の監視を強めてまいりたいと存じます。

今後とも自民党に対する深いご理解とご支援をお願いし、新年のご挨拶といたします。

## これまでの動き

9月24日	道州制勉強会	11月11日	臨時県議会
25日	早期退職制度勉強会	12日~14日	政務調査(福岡県、宮崎県)
26日	水族館勉強会	17日~28日	決算特別委員会(一般会計)
10月6日~7日	決算特別委員会(企業会計)	27日	林活議連絡協議会
8日~10日	政務調査(愛知県、三重県、岐阜県)	25日	政党内協議、リサイクル部会
11月4日	政党内協議	12月2日~17日	12月定例県議会

# 議 会 報 告

## 11月 臨時会

11月11日に臨時県議会が開催され、低温等の異常気象による水稲の被害対策に係わる一般会計補正予算(総額6,254万円)や一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正などを可決しました。

また、閉会中の10月6日～7日に決算特別委員会で審査された「平成14年度の病院事業会計及び公営企業会計」の決算を認定しました。

## 12月 定例会

12月2日から17日までの16日間の日程で開催されました。初日に知事の説明後、17日～28日に決算特別委員会で審査した「平成14年度一般会計」の決算を認定しました。

一般質問は、7人の議員(自由民主党会派は原氏、武田氏の2名)が行いました。常任委員会の審査と総括質疑を経て、総額33億6,970万円を減額する一般会計補正予算や条例などを可決したほか、人事案件3件に同意しました。

また、議員の定数等に関する事項について調査・検討する「議員定数等調査特別委員会」を設定し、閉会しました。なお同特別委員会の委員長には、津谷永光氏が選任されました。

## 総 括 質 疑

今定例会から、定例会ごとに開催することになりました。

総括質疑は、当面する県政の重要課題や部局間にわたる事項について、知事等に質疑を行うものです。

主な質疑は次のとおりでした。

- 市町村合併について
- 林業活性化について
- ソウル便対策について
- 大曲以南の新幹線化について
- 秋田内陸縦貫鉄道について

# 新春にあたっての**抱負** or **信条**



子供にまさる宝なし。

北秋田郡

北林 照助

●会計監督



充実と創造をめざし  
常に感性を高める志。

大曲市

辻 久男

●党紀委員長



自由で活発な議論、  
政策提言する自民党会派。

南秋田郡

藤原 俊久

●議員会長

●会計監督



和而不同

秋田市

北林 康司

●幹事長



激動に立ち向かう  
確かな一歩の年でありたい。

仙北郡

安杖 正義

●議員副会長

●監査委員

●党紀委員



初心を忘れず、常に  
謙虚でありたいものです。

北秋田郡

津谷 永光

●議員定数等調査特別委員長

●財務委員長



議長としてより一層の  
議会活性化に努める。

大館市

鈴木 洋一

●議長

●党紀委員



夢と生きがいの持てる  
郷土づくりのために！

秋田市

中泉 松之助

●組織委員長



変化の激しい時代です  
積極的に行動します。

由利郡

佐藤 健一郎

●議会運営委員長

●党紀委員



夢と希望を  
持ち一意勇心。

仙北郡

大野 忠右工門

●総務会長

おめでとうございます。

写真

抱負or信条

選挙区  
氏名

- 議会会派の役職
- 議会の役職
- 県連の役職

新年あけまして



「環境と調和」本県農業の自立を目指して。

仙北郡  
原 盛一

- 商工労働副委員長
- 副幹事長



“初心を忘れず”  
県民との信頼を第一に行動!

秋田市  
富樫 博之

- 政務調査会長
- 教育公安副委員長
- 政務調査会長



愛する郷土のために  
積極果敢な行動を。

横手市  
鶴田 有司

- 総務副会長



動機はヤル気実行は勇氣  
実現は根気まず行動!!

山本郡  
金谷 信栄

- 福祉環境副委員長
- 広報委員長



自然と共生する  
豊かな故郷秋田を創りたい。

山本郡  
武田 英文

- 政務調査会長代理
- 農林水産委員長
- 政務調査会長代理



皆様とともに夢ある  
地域の実現に頑張ります。

本荘市  
小田 美恵子

- 総務企画委員長
- 政務調査副会長



今年、年男36才です。  
有言実行で頑張ります。

雄勝郡  
大関 衛

- 建設委員長
- 政務調査副会長



今年こそ  
豊作でありますように。

平鹿郡  
柴田 正敏

- 広報副委員長



全力投球!  
新鮮力で新しい秋田県を!!

南秋田郡  
平山 晴彦

- 財務副委員長

議会会派構成(計48名)

自由民主党	19名
みらい21	11名
新生会	6名
民主党・無所属クラブ	4名
社会民主党	4名
いぶき	2名
公明党	1名
共産党	1名

## リサイクルへの取組み状況

10月8日 名古屋市 中部リサイクル会

9日 桑名市 (株)ホクキャスト

津市 三重県議会

10日 岐阜市 岐阜県議会

輪之内町 タイボープロダクツ(株)



桑名市 (株)ホクキャスト



津市 三重県議会



輪之内町 タイボープロダクツ(株)



福岡市 (株)ホスピタリティ ワールド

## 福祉施設 (デイサービス旅館等) 視察

11月12日 秋田→福岡

13日 福岡市 (株)ホスピタリティワールド

宮崎市 宮崎アーバンホテル

14日 宮崎市 青島観光ホテル

平成15年

# 一般質問

12月定例会



原 盛 一

住 所 〒014-0112  
仙北郡仙北町板見内字弥兵衛谷地238  
電 話 0187-69-2866  
FAX 0187-69-2389

## 行政改革について

### 1. ニュー・パブリック・マネジメント (NPM) に対する取り組みについて

#### 知事答弁

総務事務プロセスの再構築、人事評価による能力開発や能力等級制の導入、事務・事業の民間開放や県民との協働の推進など、ニュー・パブリック・マネジメント、すなわち民間企業の経営手法を、より一層取り入れてまいりたい。

### 2. 総務事務ITシステム推進チームについて

#### 知事答弁

職員一人ひとりによる発生源入力、確認や審査等の中間処理の廃止など、業務の流れ自体を抜本的に見直すとともに、ITを活用した一括集中処理体制を確立することを目指している。

なお、給与に関する再質問に知事は、定年退職時特別昇給について、現在廃止の方向で職員団体と協議中であるとの答弁がありました。

## 市町村合併について

#### 知事答弁

地域のあり方は地域が主体的に決めるべきものであります。人口のみで線引きをし、一万人未満の市町村に合併を迫るといったような手法は、地方分権の流れに逆行するものであり、決してあってはならないと考えております。

私は、いろいろな自治の姿があつていいと思います。そうした市町村の様々な取組みをサポートしていくことが、県の重要な役割であると思います。

## 農業政策について

### 1. 県内の水田農業ビジョン構築と進捗状況について

#### 知事答弁

地域自らが水田農業の将来像を描き、それを着実に実現していくためには、ビジョンをできるだけ早く作成し、農業関係者のみならず、地域が一体となって取り組む体制を整えることが重要であります。

このため県では、各市町村・農協が主体となつてすみやかに作成するよう、地域振興局が指導・支援を行っており、年内には、全ての地域で素案づくりを終える予定になっております。

### 2. 米の生産調整について

#### (1) 特区扱いの可能性について

#### 知事答弁

農業者や農業団体が、米の需給や価格の動きを踏まえ、自らの判断で、生産目標数量を設定しながら、消費者ニーズに沿った米づくりを目指すこととしており、国の法律などによる規制を特例的に緩和する構造改革特区には、なじまないと考えております。

## (2) 県の枠を越えた生産調整の互助について

### 知事答弁

特に東北では、稲作が地域の経済基盤となってきたこと、さらには、米づくりへの強い志向などの歴史的背景があり、生産調整の互助方式においては、本県の意向が、必ずしも他の地域で受け入れられるものではないと考えております。

## 3. 農林水産物の輸出の促進について

### 知事答弁

昨年度から秋田スギの中国での需要の可能性を探るとともに、本年六月に都道府県協議会に参加し、海外の市場動向や輸出に関する手続きなどの情報提供に努めております。

## 4. 県総合食品研究所の研究の充実について

### 知事答弁

研究課題の重点化を図り、県産農産物や酵母を活用した、全国的にも注目されるような新たな技術の開発とその実用化を進めます。

## 5. 協同農業普及事業について

### 知事答弁

国の法律改正の動向を見極めながら、普及職員の専門性の徹底と技術力の向上を図るとともに、市町村やJA、指導農業士、更には民間事業者との一層の連携強化により、それぞれの役割を明確にしたうえで活動内容を重点化し、産地づくりなどの課題を効率的に解決できるよう、体制の見直しを行っていく必要があると考えております。

## 秋田ソウル定期便について

### 知事答弁

七月からは、庁内に「秋田・韓国交流促進チーム」を設置し、交流の基盤づくりを進めながら青少年交流を始め文化・

スポーツ・経済など多方面に渡る交流事業を推進するとともに、韓国からの観光客の受け入れについても積極的に取り組んでおります。

しかし、こうした集中的取組みを行っても期待される効果が得られなかった場合には、その時点で改めてその後の方針について判断しなければならないものと考えております。

## 秋田内陸線の存続について

### 知事答弁

沿線八町村長などをメンバーとする「秋田内陸線沿線地域交通懇話会」を設置し、内陸線の現状と課題、地域観光振興という視点を含めた存続の可能性、バス等他の交通手段に代替した場合との費用便益比較など、様々な視点から、徹底した議論を行い、沿線の地域交通のあるべき姿について、一定の方向性を示したいと考えております。

## 動物愛護と教育について

### 教育長答弁

子どもたちに豊かな人間性をはぐくむため、土曜・日曜日に親子が一緒になって自然や動物等と触れ合う体験の場や機会を提供してまいりました。今後も、動物愛護週間等、社会全体の取り組みも活用しながら、豊かな情操がはぐくまれるよう、教育活動の充実に努めてまいります。

## 真木ダム建設の見通しについて

### 知事答弁

平成十五年度秋田県公共事業評価専門委員会では、調査の継続が妥当とされており、引き続き調査を進めてまいります。



平成15年

# 一般質問

12月定例会



武田 英文

住所 〒018-3103

山本郡二ツ井町荷上場字鍋良子出口38

電話 0185-73-2346

FAX 0185-73-4808

Eメール htakeda@seagreen.ocn.ne.jp

## 衆議院議員総選挙の結果について

### 知事答弁

政治の流れは、2大政党制へと向かっており、政党間において、マニフェストという具体的な政権公約を掲げたことにより、それぞれの政策が国民にとって分かりやすいものとなりました。

違いを明確にし、政権交代を前提に互いに競い合うことによって緊張感が生まれ、より前向きな政策論議をしていただけるものと期待しております。そうした扉が開かれたということは、大きく評価できるものと考えております。

## 地方分権について

### 1. 市町村合併について

#### 知事答弁

合併をめざす場合は、将来を見据えたまちづくり計画を策定することになっておりますが、合併を選択しない町村であっても、自立のための計画が必要であるとの考えから、そうした計画を早急に策定して住民に示すとともに、県にも説明していただくよう強く求めてまいりました。

地方分権社会においては、自己決定・自己責任を基本に、市町村の判断は最大限に尊重されなければならないとい

う考えは、私も、まったく同感であります。知事として、申し上げるべきことがあれば今後も率直に申し上げてまいりたい。

### 2. 道州制について

#### 知事答弁

市町村が合併などにより行政能力を高めた上で、国や県から規模・能力に応じて事務や権限の移譲を受け、行政サービスの多くを市町村が担うようになれば、都道府県の役割は自ずから変化し、県は道・州など、より広域的な行政組織に向かうことは自然の流れであり、我々の責務を考えれば、その先の広域行政体のあり方について今から検討を進めることが求められているものと思います。

### 3. 構造改革特区について

#### 知事答弁

必要な規制改革ならば、本来は全国一律に速やかに実行すべきものであり、特区制度のような規制改革は、小手先の改革といわざるを得ません。

さらに、認定に際しては一件審査を行うなど、中央省庁がその判断権限を決して手放さず、多くのニーズがあるにも拘わらず、結果として対応が遅くなるのが問題であります。

そうした意味において、先の議会で「構造改革特区を高く評価しない」と述べたものであり、その思いは現在も変

わっておりません。

しかし、こうした特区制度であります。制度として存在する以上は、地域の活性化のためにその仕組みを活用していくことは当然のことと考えています。

## 自殺予防への取り組みについて

### 知事答弁

平成14年の自殺者数は過去最高に達し、自殺率は平成7年から8年間、連続全国第1位という誠に憂慮すべき状況となっておりますので、自殺問題をタブー視することなく、正面から取り組む必要があると考えております。

全市町村と共同で県内全世帯に普及啓発の自殺予防リーフレットを作成・配布するとともに、相談員や民生委員、児童委員の方々への研修を実施したいと考えております。さらに、本年度策定した「自殺予防行動計画策定ガイド」に基づき、多くの市町村が積極的に自殺予防対策に取り組めるよう支援することとしております。

また、県としては、専門医師の協力を得ながら、うつ病対策等のいわゆる二次予防の強化を念頭においた、自殺予防対策を推進したいと考えております。

## 森林環境保全のための 地方税創設について

### 知事答弁

森林環境保全のための地方新税については、幾つかの県において導入あるいは検討されておりますが、森林の持つ多様な機能は、国民生活に多大な貢献をしていることから、地方のみならず、都市圏に応分の負担を求めべきであると考えております。

こうしたことから、森林の整備を一層強力に進めるための新たな財源は、国の責任において確保することが先決であり、これまでも機会あるごとに国に働きかけております。

なお、この件について再度知事に質問したところ「県としても、水と緑を守ることが最優先課題であることから鋭意検討させていただきたい」との答弁がありました。

## 教育問題について

### 1. ゆとり教育と学力低下について

#### 教育長答弁

平成10年度から「教師と児童生徒との触れ合いの確保」を合い言葉に、学校教育の活性化とスリム化を図ってまいりました。そのねらいとするところは、あくまで「ゆとりと充実」であり、その主要な施策として、ふるさと子どもドリーム事業や学習状況調査を実施してまいりました。

学校教育の指針は、豊かな人間性をはぐくむ本県の教育理念を示すとともに、学力向上や学校評価、学校安全等の重点施設の周知徹底を図るための、毎年全教職員に配布しているものであり、今年度も、十分な実態把握をして、本県の教育課題をとらえ、ゆとりの中で「生きる力」の教育がなされるよう内容を取りまとめていくこととしております。

### 2. 教員採用のあり方について

#### 教育長答弁

個性豊かで使命感を持っている人材を確保するために、様々な角度からの面接を通して人物を評価するほかに、複数の適性検査を行っており、それらの結果を総合的に判断し、選考しております。

特に、スポーツなどで顕著な実績のある受験者については、その経歴や大会等の成績、指導者としての資質を専門的な視点から評価した資料を重要な判断要素としているところです。

校長の公募制や民間人の登用について、本県にふさわしいあり方と課題を検討しておりますが、他県の先行事例に対する評価が未だ定まっていないことから、新しい学校づくりを研究しているところであります。

# 県連だより

## 県連会長に野呂田芳成氏！



会長  
野呂田 芳成

さきの総選挙敗北の責任をとるとして金田勝年氏から提出された会長職辞任届の取り扱いを協議した結果、11月17日の常任総務会で正式に了承され、新たに野呂田芳成氏を会長に決定した。

県連三役からも辞任の申し入れがあったが、来年の参院選に向けて皆んなで力をあわせていくとして辞任は認められなかった。

野呂田氏の会長就任は2年半ぶりで4度目。

## 金田勝年氏は参院選選对本部長

同常任総務会で来年7月の参院選選对本部を設置。慣例では県連会長が選对本部長を努めるが、金田氏が全県に支持者を持っていることから本部長に就任することになった。

## 県連改革小委員会の立ち上げを決定

12月16日の常任総務会において、県連改革小委員会を立ち上げることに決定し、そのための準備会を開催した。準備会のメンバーは、津谷氏、中泉氏、武田氏、小田氏、大関氏、平山氏、柴田氏の7名が選出され、準備会の座長には大関氏が互選された。

第2回目の準備会が25日開催され、メンバーに県議会議員の他に民間人や女性部、青年部等から6名を加え、計13名のメンバーで発足することが決まった。最初の改革小委員会は1月19日(月)を予定し、第一回目は党のイメージについて外部から民間人を招いて意見を聞くなど、自由な討論を行うこととしている。

どうぞ、皆様方からも県連の改革に向けてご意見、ご要望をお寄せ下さい。



白神山地遠望

## 編集雑記

明けまして、おめでとうございます。

輝かしい新年を、ご家族揃ってお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は申年、難が去るということから縁起が良いのだそうです。何としても、地域経済が好転して欲しいと願わずにいられません。

県政においては、難題が待ちかまえています。市町村合併は正念場を迎え、三位一体の改革の行方は、地方分権のあり方を問うこととなります。本県には、全国一のスピードで進展する少子高齢化の大波と、急激な人口減少という変わらぬ大きな課題も横たわっ

ています。基幹である第一次産業の振興をどのように図っていくのでしょうか。

妙案などあるはずはありません。足元をもう一度良く見直し、私たちの持っている資源を活かきることに愚直に取り組むしかないのだと思います。執行部とも議論を交わしながら、この一年、ともに考え、汗を流していきたいものです。

皆様にとりまして、幸多い年となりますように、心からご祈念申し上げます。

(担当 武田英文)

ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集／秋田県議会自由民主党会派 政務調査会  
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号 県議会内  
Tel.018-860-2040 Fax.018-860-2102  
発行／平成16年1月15日 責任者／富樫博之

